
全ての思いつきを記録・管理・整理する Wiki 型 CMS「UBIKI」

個人用に特化した、メモツールとしての CMS

背景

現在において、最も一般的なメモツールは「紙」である。紙の最大の利点はいつでもどこでも使えるということである。しかし、紙のような物理メディアはデジタルメディアに比べ管理コストが高い。

アイディアの管理はデジタルデータの方が都合がよい。紙は時系列でしか情報を保存できないのに対して、デジタルデータは複数のメタ情報ごとに整理、検索が可能なので、柔軟な管理が可能である。

そうやって集めたアイディアも全てが独立しているわけではない。類似したアイディア・方向性が近いアイディアをまとめて、それらについて考えて初めて価値が発生する。しかし、紙は情報の記述には向いているが、情報の管理にはあまり向かないメディアである。物理的な管理コストの問題もあるし、データの検索、再利用がしづらい。なによりコピー & ペーストが出来ない。

そうやって頑張って集めて整理したアイディアもほとんどは既出であり、単体で意味をなさない。だが、駄目なアイディアもとにかく積み重ねて、組み合わせることでその中からオリジナリティーが生まれてくるモノである。重要なのは、自分そして他人のアイディアを多数見て考え続けることである。そしてそこからどう発展させていくかだ。しかし多くのアイディアは自画自賛的勘違いと公開するのが面倒であるという理由から、個人のメモツールに秘匿されているのが現状だ。

従って、状況を問わず手軽に入出力可能で、管理・整理・公開が容易なメモツールが必要である。

目的

本プロジェクトの目的は、複数の入出力方法を持ったメモ用 Wiki 型 CMS「UBIKI」を開発することである。

開発内容

開発システムの概念図を図 1 に示す。図 1 に示すように、開発システムは大きく分けて、3 つのインターフェースで構成される。オンライン PC の Web ブラウザ上からメモの内容を入出力できるもの、オフライン PC 上で動作する専用クライアント、E-mail を用いて入出力が行えるもの三つである。

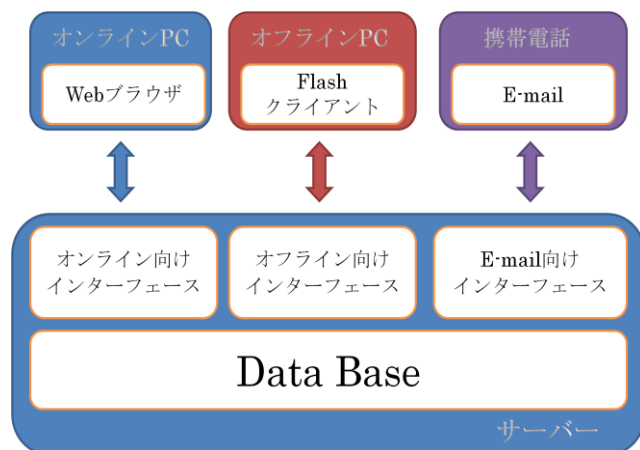


図 1 開発システムの概念図

オンライン PC 向けインターフェース

PC がオンラインであれば、サーバー上にインストールされたオンライン PC 向けインターフェースを用いてデータの入出力が可能である。基本的な使用方法是既存の Wiki と同じである。これは Ruby On Rails 及び MySQL を用いて制作されている。

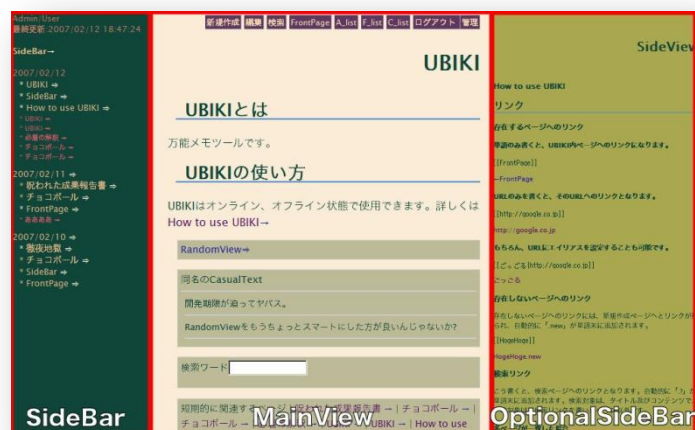


図 2 オンライン PC 向けインターフェース外観

オフライン PC 向けインターフェース

PC がオフラインであれば、ローカルにインストールされたオフライン PC 向けインターフェースを用いてデータの入出力が可能である。オンライン時に同期したデータを用いての入出力が可能であり、再度オンラインになったとき、差分を同期する。これは Adobe Flash で制作されている。

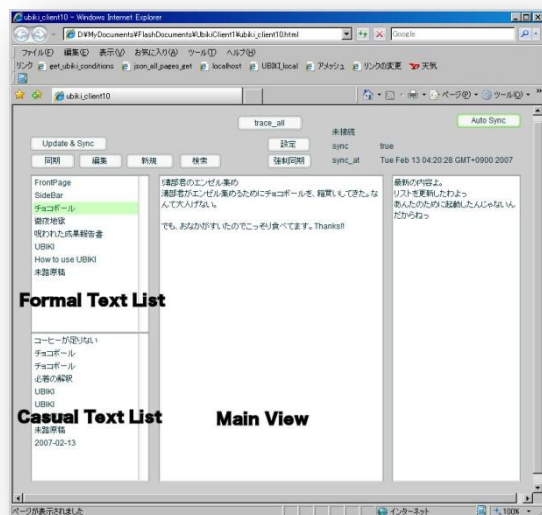


図 3 オフライン PC 向けインターフェース外観

E-mail インターフェース

PC が手元に無い状態では、携帯電話の E-mail 機能を用いてデータの入出力が可能である。新規データの入力、既存のデータの参照、検索が可能である。

従来の技術(または機能)との相違

従来の Wiki 型 CMS は 1 つの Wiki を複数のユーザーで使うことを想定しているため、メモ書きのような文章を書くことを許容していない。ページタイトルは常に固有名でなければならないからだ。しかし、個人で使うということを想定すると、このルールは窮屈である。

逆に、従来の WeBlog 型 CMS は書き散らすことを前提としているため、ページ間にリンクを貼って 1 つの文章、コンテンツを構築する、という用途には不向きである。

従って、ユーザーは用途に応じて複数の CMS を組み合わせて使わなければならなかった。その際、異なった CMS 間でデータの再利用は非常に面倒であった。当然、思いつき、アイデアなどは複数の CMS 内に分散し、再利用は困難となった。

そこで UBIKI には従来型のカテゴリー分けやタグ付けと言った「文章の意味」による分類ではなく、「文章の利用方法」という点でのみ分類をしようというものである。

Wiki 的な文章である「Formal Text」、メモ的な文章である「Casual Text」、Blog・日記的な文章である「Diary Text」の3つからなるページタイプを設定するし、これらの CMS の利点を組み合わせることにより、1つの CMS で「日記」「ドキュメント」「メモ書き」といった複数のタイプの文章をまとめることが出来るようになった。そのため、思いつき、アイディアが分散せず、整理、再利用が非常に容易になった。

期待される効果

UBIKI を用いれば、従来であれば「記録するのが面倒である」という理由で記録されず、忘れ去られていた記憶が保存され、性格的な問題で既存のメモツールを使いこなせなかった人々への助けとなることが期待される。

普及(または活用)の見通し

現時点では未完成な部分も多く、公開・実用レベルではない。従って、未踏ユースの開発期間中に開発されたものをベースにして以後も開発を続けるつもりである。公開可能レベルになった時には、Web ページを通じソフトを宣伝、公開して、ユーザーへのサポートをする。

開発者名（所属）

栗川 洋平(電気通信大学 大学院 電気通信学研究科 人間コミュニケーション学専攻)